

2003 年度 委員会活動成果報告

(2003 年 3 月 31 日作成)

委員会名	建築プログラミング小委員会	主 査 名：井上 誠
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築経済委員会	委員長名：嘉納 成男
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	設計の前段階であるプログラミング(設計条件の検討・設定)における手法・理論を確立することを目的としている。2003 年度は、2004 年度の大会 PD 開催を目標に、プログラミングとブリーフィングの関連、実務での取り組み方、方法論などの検討をおこない、開催企画を立案する。	
委員構成 (委員名(所属))	井上誠(福山大学) 山田哲弥(清水建設) 嶋村仁志(千葉工業大学) 大久保克則(自営) 柳父行二(大阪ガス) 柳澤要(千葉大学) 尾崎健夫(早稲田大学) 藤本秀一(建築研究所) 平野吉信(国土技術政策総合研究所)、毛谷村英治(宮城大学) 吉田一郎(竹中工務店)	
設置 WG (WG 名:目的)	なし	
2003 年度予算	70,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	<p>8 月 1 日：5 名 柳父委員によるプログラミング事例(学位論文)の紹介。 12 月 27 日：6 名 次年度大会研究協議会・PD の企画について審議。</p> <p>* 委員会開催回数は 2 回であったが、主査を含め遠方の委員に配慮して、電子メールによる意見交換、ディスカッションを中心に活動した。 * 環境工学委員会・ヒューマニジングWG と連携し、プログラミングの必要性、位置づけ、業務内容等について、検討した。</p>
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>1. プログラミング事例の収集 昨年度に引き続き、プログラミング事例について調査、収集した。(大阪ガスの事例) 教育施設のプログラミング事例について、環境工学委員会ヒューマニジングWG の報告書にも反映させた。</p> <p>2. 2004 年度大会パネルディスカッション企画の立案と開催の決定 テーマ：「施設計画実務におけるプログラミングの捉え方」 一連の建築プロセスにおけるプログラミングに関わる、発注者、コンサルタント、設計者、建設会社(とくにプロポーザル部門、企画部門など)の業務実態やそれぞれの検討段階におけるプログラミングの有用性の明確化をテーマ課題とするシンポジウムを企画、提案し、来年度建築学会大会で、パネルディスカッションとして開催することとなった。</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>* 活動計画通りの成果である(2004 年度大会 PD の開催)。 (今後、パネルディスカッションに関連して、パネリストの依頼、資料集の作成、進め方等の詳細の検討について、活動する予定。)</p>
その他評価すべき事項	<p>* 環境工学委員会ヒューマニジングWG(山田委員がメンバーとして参加)との連携により、建築プログラミングについて、環境心理学的側面からの研究成果としてのツール活用を狙ったアプローチと、建築企画の側面から捉えた建築プログラミングとの相違点について、ある程度明らかになった。</p>